



駒岡小学校だより

10月号

地域とともに歩む学校と道徳科教育

校長 松本 稔

毎年、9月初旬から学校を開く週間を設定しております。いつでも、どんな授業や活動でも、ご都合のつく時間帯に参観いただけるように設定している取り組みです。

保護者の皆様からは、普段のお子さんの様子や授業以外の学校での様子などを知ることができて、とても良いというご意見をたくさんいただきました。7日の金曜日には全校一斉に行った道徳の授業もたくさんの方々にご参観いただき、新しい道徳科の授業をご覧いただき、「家庭の中でもいろいろな人の考え方や物事の価値観について話し合う良い機会ができてよかった。」というとてもうれしいご意見やご感想もいただきました。ありがとうございました。

これまでの道徳の授業は「どうあるべきか」「どう考えればよいか」「どう行動すべきか」など、意識や行動に結びつけた価値観を教え込むイメージが強い時代が続いていました。

現在は道徳科（特別な教科）の内容は「自分自身に関すること」「人とのかかわりに関すること」「集団や社会とのかかわりに関すること」「生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること」の4点に分類され、整理されています。そうした内容を道徳科の中で学ぶ姿を、横浜の教育では、「考える道徳」「議論する道徳」とし、自分の生活から必要感をもって問題を見つけ、日常生活や、今後出会うであろう様々な場面、状況で適切な行為を主体的に判断し実践できる人として成長しようとする姿を描いています。そうした問題解決的な学習活動を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目標としています。

本年度の重点研究の内容として道徳科を取り上げ、自ら学び、社会とつながり、ともに未来を創る人の育成を目指しています。

学校開く週間の最終日には学校運協議会の委員の方々にもご参観いただき、人権教育や道徳の授業についての貴重なご意見をいただきました。学校、地域、保護者の中で子どもたちが心身ともに健康に育つためにも道徳教育が一つの軸になっていくことが望ましいと感じています。今後ともよろしく願いいたします。

駒岡地区連合敬老慰安会が9月9日に行われました。毎年、駒岡小学校の児童の「3年生の合唱と合奏」「コーラスクラブの合唱」「マーチングクラブの演奏と演技」を発表させていただいています。子ども達にとって、喜んでいただける経験を通して、地域のお年寄りの方々に大切にされる気持ち（価値観）を育む大切な場面です。地域の方々にとって、子ども達の輝く姿を見ていただき、より元気になっていただける場面になれば幸いです。



鶴見区の人口288966人のうち、90歳以上の方の人口は1433人だそうです。

さらに100歳以上の人口は42人だそうです。実際に数字が語っているところですが、今の子ども達はお年寄りと触れ合う場面がより多くなることは予想されます。お年寄りを敬う気持ちを育てる機会として、道徳科教育の有意義な時間になればと思います。ありがとうございました。

<学校の桜の木について>

春の駒岡小学校は桜の花が見事です。しかしながら開校以来46年以上の月日により、桜の木が枯れ始めています。中には枯れて倒れる危険性があり、近隣の住民の方々には被害を及ぼす可能性もあります。

樹木の専門家に診断していただき、給食室と校舎の裏側を中心に数本の桜を伐採することとなりました。ほぼ枯れてしまっている桜ですので、春に桜の花が見られなくなるようなことはありませんので、どうかご理解のほど、よろしく願いいたします。10月8日より3日間の予定で伐採工事が行われます。

